

未来博士3分間コンペティション2016 最優秀賞受賞者 参考資料

昨年度の本大会において、審査員や来場者への配布資料に掲載された発表者情報です。最優秀賞受賞者、広島市立大学大学院情報科学研究科 飯島聡志さんに関する掲載箇所を、ご本人の了承を得て転載させていただきました。提出資料に含まれている自己PR文、研究概要を作成される上で参考にしてください。

Please find below the Self-Promotion message & Research Summary of Mr. Satoshi Iijima, the winner at the Three Minutes Competition for Future Doctors 2016. He has kindly agreed to share his information with the applicants to the 2017 competition. Please leverage it for your reference when you complete your application form.

【自己PR文/ Self Promotion】

6 聴覚フィードバックを利用した発声トレーニング

広島市立大学大学院 情報科学研究科 情報科学専攻

飯島 聡志 (いじま さとし)



自己PR

私は2006年に広島大学大学院教育学研究科を修了し、その後クラシックの音楽家としてオペラやコンサートに出演し演奏活動を行ってきました。同時に音楽教室やカルチャーセンター、大学等で声楽の指導にも携わってきました。それらの活動の中で感じた聴覚と発声の関係についての謎を解き明かしたいと思い一昨年から広島市立大学情報科学研究科に在籍し研究に取り組んでいます。いきなり理系の世界に飛び込んだので最初は苦しい時期もありましたが少しずつ慣れてきたところです。まだまだ情報科学に関する知識は十分ではありませんがコツコツ勉強を続けてゆくゆくは歌う研究者として歌声のスペシャリストになりたいと思っています。

【研究概要 / Research Summary】

人は会話の時、発した声を聴覚器官により知覚し、知覚した情報を発声器官にフィードバックすることで発声を調節しています。聴覚から発声へのフィードバックは聴覚フィードバックと呼ばれ、これまでに多くの研究が行われてきました。研究結果として、騒音の大きい所では自然と声が大きく、高くなり、自分の声が高くなったと感じたら低く下げようとする反応が起こるなど、様々な音環境で音声によるコミュニケーションを成立させるための調整機能が聴覚フィードバックの主な役割だということが分かってきています。

私の研究テーマは聴覚フィードバックを利用して歌唱訓練システムを構築することです。歌唱訓練では発声法の習得、音程や音色のコントロールなどを学びますが、学習者の声に不足している部分を補うフィードバックを音響的に作ることが出来れば歌唱訓練の大きな助けになります。歌唱は最も身近で気軽に行える音楽演奏である反面、苦手意識を持つ人にとっては最も敬遠したいものでもあります。しかし、歌唱はその行為自体が楽しくまた様々な健康効果などが期待される素晴らしいものです。そんな歌唱をより多くの人が楽しめるようになることが私の研究の目的です。